

## 第61回プログラミング・シンポジウム開催に際して

今回でプログラミング・シンポジウムも61回となる。一般発表が14件、ポスターとデモが併せて7件と招待講演1件、山内奨励賞受賞講演が1件である。計算機ソフトウェア、特にプログラミングの将来に向けて活発な意見交換をされたい。

今回のプログラミング・シンポジウムの開催は東京オリンピック・パラリンピックの年である。前回の東京オリンピックは1964年10月10が開会式であった。日本で開催するには気候的には春か秋がよい。1964年のときは10月、とても良い時期であった。今回は何故か真夏の開催であり、最近になってマラソンや競歩は札幌で行うとのIOCの決定がなされた。然るに、多分気候的な影響は大差なくその日の状況によるので、何の改善にもならないと思われる。そもそも真夏の日本で開催するのに無理があるが、それが特定の国の事情によるとすると、そのことについて皆さんの考えは如何か。日本では1964年のように秋に行われるのがよいと感じているところだ。

今年、平成から令和の世になった。皆さん新しい世での何かしらよい前途に期待しておられると思う。この秋、38年ぶりにローマ教皇が日本を訪れた。伝統あるカトリックの最高指導者であるローマ教皇である。その方が広島と長崎を訪れ、原爆を戦争で使うことが犯罪であると言い、東京では東日本大震災の被災者との交流会をはじめ諸々の活動をされて、帰る飛行機の中で、記者の質問に答える形ではあるものの、原子炉で発電をすべきでないと言われたことは重い。

私自身、東日本大震災のあと福島原子力発電所の事故の影響を受ける羽目に陥った。小生の学部時代の授業で教えられたフェイルセーフ (fail safe) の語が記憶にあるが、これは壊れたとき安全であることを意味する。原子力発電について久しくなんの関心も持って来なかったところだが、この地震で福島の発電所における事故が起きて気がついた。フェイルセーフが全然できていないことを思い知り、工学の基本を全うできていないことがわかった。

東日本大震災とは2011年3月11日14時46分頃に起きたM9.0の東北地方太平洋沖地震による災害を謂う。この地震による揺れと津波による被害は大変なもので悲惨なものであった。加えて福島第一原子力発電所における事故の被害は今も続いている。現在も汚染された水にトリチウム即ち $\beta^-$ 崩壊する水素の同位体 $^3\text{H}$ が入っている。その半減期はおよそ12年である。トリチウムの入った水を取り除くのは困難だ。今福島では希釈して海に流すことを検討していると聞く。

今年台風被害も大きかった。特に台風15号と19号が首都圏を直撃した。15号が9月9日の5時頃千葉市付近に上陸した時の勢力は中心気圧960hPaで最大風速40m/s、19号が10月12日の19時頃伊豆半島に上陸したときの勢力は中心気圧955hPaで最大風速40m/sで大変な被害をもたらした。

台風では、室戸台風(1934)、枕崎台風(1945)、伊勢湾台風(1959)が人的被害が大きいことで知られている。伊勢湾台風では死者・行方不明者数5000人超である。私は名古屋で伊勢湾台風を経験している。これは昭和34年の台風15号で、1959年9月26日の18時過ぎ潮岬付近に上陸したときの勢力は中心気圧920hPa、最大風速60m/sの猛烈で超大型のものであった。今年台風が首都圏を襲ったときに伊勢湾台風がきたときの恐ろしさを思い出していた。自然災害の被害は大変大きいものとなる。フェイルセーフが重要だと記す所以である。地球温暖化の影響と思われるが、このところの気象状況は大変激しい。100年に一度の事態などと云っている場合ではない。

電子計算機は、戦争のために研究されていたものを基にして、1940年代の中頃に開発されたと聞く。当時は大きなものであったらしいが、現在のコンピュータは手のひらにのるほどになり、様々なものに利用され、市民生活になくてはならないものとなった。しかもネットワークの技術で世界のコンピュータがつながっている。それはとても素晴らしいことだが、心ないものたちによる攻撃の脅威にさらされていることも事実だ。コンピュータを働かせているのはプログラムだが、プログラミングにたずさわる我々は人々に幸せをもたらすことを念頭におかねばならないと思うこの頃である。決して戦争の道具としてのプログラムを作ってはならない。最近の世界情勢をみるに気になるこのごろである。

夏のシンポジウムは「夢の子供向けコンピュータ教育カリキュラム」と題して2019年9月の6日から8日にかけて行なわれた。コンピュータが社会の重要な地位を占めるようになってきており、小学校の6年間でコンピュータを教えることになったことによる。

横山幹事長をはじめ幹事の皆さんの努力のおかげで今回開催の運びとなった。お礼申し上げます。

2019年12月

プログラミング・シンポジウム委員会  
委員長 辻 尚史